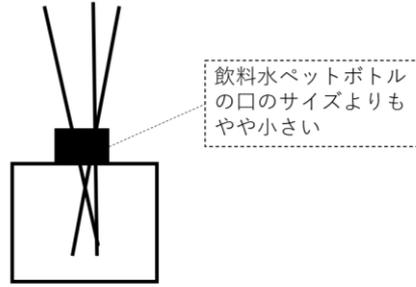


Injury Alert (傷害速報) 類似事例

芳香剤による化学性喉頭熱傷 (No.106 アロマディフューザーの液を誤嚥したことによる化学性肺炎の類似事例1)

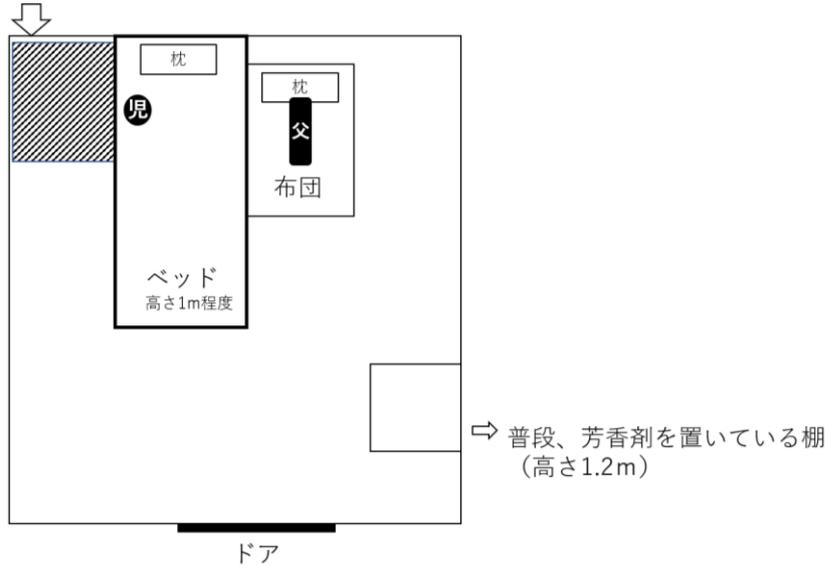
事例	基本情報	年齢：1歳 5か月 性別：男児 体重：11.3kg 身長：82.0cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		化学性喉頭熱傷
医療費		入院 1,525,090円
原因対象	対象名称	芳香剤【図1】
	入手経路 使用状況	2020年12月、ドラッグストアで購入。花の香り。香料の無色透明な液体がボトルに入っており蓋はないため香料が容易に流出する。5-6本程度のスティックがささっている。ボトルの口のサイズは飲料用ペットボトルの口のサイズよりもやや小さい【図1】。発生当日、香料は半分程度の量であった。
発生状況	発生場所	自宅寝室
	周囲の人 周囲の環境	本児は、ペットボトルから直接飲水が出来るようになっていた。寝室の状況【図2】：寝室のドアから見て左奥に棚（高さ1.1m程度）が隣接したベッド（ドア側に足を向ける、高さ1m程度）、その右側に本児が眠る布団があった。また、ドアから見てすぐ右壁側にも棚（高さ1.2m）があり、普段は芳香剤を置いていた。ベッドに隣接した棚には普段から置時計があり、入眠前の本児がベッドによじ登った際に時計を触ることがよくある。普段からすぐには入眠せず、ベッドによじ登ったり布団に戻ったりを繰り返しながら入眠する。
	発生日月日	2021年2月X日(土) 午後9時

	<p>発生時の 詳しい様子 受診までの経緯</p>	<p>2021年2月X日、日中に母が寝室の掃除をした。その際、母は芳香剤をベッドに隣接した棚に置き元の場所に戻し忘れた【図2】。午後9時ごろ、寝かしつけのため父と本児で寝室に入った。父と本児で床に敷いた布団に入ったが、本児はいつものようにベッドに上った。寝たふりをすると本児が布団に戻ってくるため、父は布団で寝たふりをしていた。約10分間、ごそごそと音はしていたが普段から入眠前にベッドに隣接した棚の上に置いてある置時計をいじるなど音を出すため父は特に異常を察知しなかった。本児が激しく泣きながら父のもとにやってきた為、本児を抱っこしてリビングにいた母の所に行くと、本児から芳香剤の香りがすることに母が気付いた。母が寝室に行くとベッドの枕元に芳香剤のボトルとスティックが落ちていた。ボトル内に残液はなく、枕元は濡れていた。芳香剤を誤飲したと考えた。泣いてから数分経過してから嘔声と犬吠様咳嗽が出現したため医療機関を受診した。</p>
	<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>X日午後10時に医療機関到着時のバイタルサインは体温37.3℃、心拍数150回/分、呼吸数40回/分、酸素飽和度93%(室内気)であった。安静時は副雑音、吸気性喘鳴を聴取しなかったが、啼泣時に嘔声と犬吠様咳嗽が出現した。同日午後10時30分に採血時の啼泣を契機に吸気性喘鳴が出現し、努力呼吸が著明であったため、気道緊急として救急外来で挿管された。直視下では、声門後壁に軽度の浮腫性変化を認めるのみであった。全身管理目的で集中治療室に入室した。X+1日午前3時に実施された喉頭ファイバースコープで喉頭の著明な浮腫性変化を認めた。気管内は明らかな粘膜変化を認めなかった。気道の異常のため筋弛緩薬を併用した深鎮静管理とした。X+3日に喉頭ファイバースコープを再検したところ、喉頭蓋と披裂部の腫脹を確認したため挿管管理を継続した【図3】。X+5日に喉頭ファイバースコープで喉頭蓋左側の浮腫と披裂部の浮腫を認めたが改善傾向であり抜管された。抜管後、啼泣時に嘔声と吸気性喘鳴を聴取したが安静時の呼吸は問題を認めず、以降安定して経過した。X+6日に一般病棟に転棟した。経過中肺炎や腹部症状はみられなかった。同日から食事を再開し、呼吸も安定して経過したためX+10日に退院した。退院後も気道症状の再燃はなかった。</p>

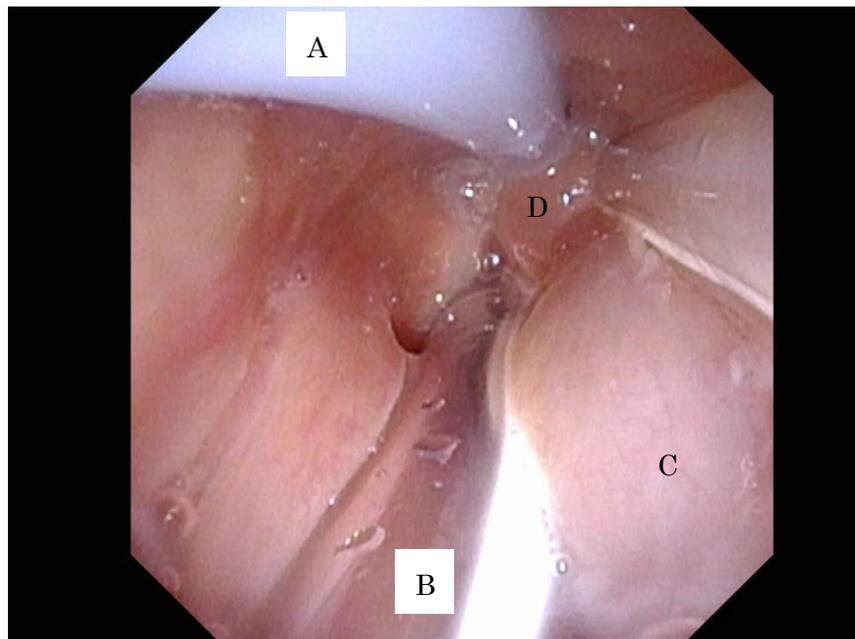


【図1】芳香剤（参考イラスト）

ベッド隣接の棚（高さ1.1m）
今回、芳香剤を置いていたところ



【図2】発生現場である寝室の模式図



【図3】X+3日に実施された喉頭ファイバースコープ画像。
A：胃管、B：挿管チューブ、C：喉頭蓋の浮腫、D：披裂部の浮腫